

「避難とはどういうものなのか」を自分ごととして捉えることができます。ほかにも、釜石鵜住居復興スタジアムや水門・防潮堤をめぐるコースもあり、多くの学びを得られます。

**鵜** 住居駅前エリアに広がる「うのすまい・トモス」に、震災伝承と防災学習のために設立された公共施設。釜石折りのパーク(P40)に隣接し、展示室や資料閲覧室、防災学習室を兼ね備えています。スタッフが常駐しており、館内を無料で案内するほか(要予約)、防災ワークショップや団体向けの防災研修など多彩なプログラムが用意されています。

メインコンテンツである語り部プログラムは、実際に地元の小・中学生が避難した道を歩いてたどり、震災当時の出来事を肌で感じる事ができるというも。鵜住居地区では多くの方が亡くなられた一方で、生徒たちのほとんどが生還を果たしました。避難路を体験することで「避難とはどういうものなのか」を自分ごととして捉えることができます。ほかにも、釜石鵜住居復興スタジアムや水門・防潮堤をめぐるコースもあり、多くの学びを得られます。



避難路追体験の語り部プログラムの様子。地元の小・中学生たちが避難した経路を実際に語り部と一緒に歩いて巡る。1時間半と2時間半のコースから選べるほか、オンラインプログラムも実施中



展示室は「東日本大震災と釜石」「鵜住居地区防災センターの出来事」「釜石の子どもたち」の3テーマに分けてパネルや映像で紹介。自由に見学可能だが、無料ガイドのお話をぜひ聞いてみよう(要予約、3人以上)



資料閲覧室は、東日本大震災に関する書籍や資料、寄贈された写真などを収蔵し、自由に閲覧できる。また防災学習室は企画展やワークショップなどが行われる多目的スペースとなっている

**考えてみよう**

**Q1** 地元の小・中学生は発災後4つの避難場所を転々とした。実際の避難路はどれくらいの距離で、何分ほどかかったでしょうか？

**Q2** 普段避難訓練で使用していたごさいしょの里からさらに高台を目指して避難したきっかけは何だったでしょうか？

## 釜石市

●かまいしし

### いのちをつなぐ未来館

●いのちをつなぐみらいかん

多くの生徒たちを救った実際の避難路を歩く

釜石市の被害状況	
最大震度	6弱
浸水面積	7km <sup>2</sup>
最大浸水深	29.34m
全壊	2,957棟
半壊	699棟
一部損壊	1,048棟
死者	775人注①
行方不明者	152人注①
負傷者	不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠  
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

### 展示交流拠点

施設ガイド

※要予約

語り部あり

※要予約

車椅子OK

### 施設DATA

●いのちをつなぐみらいかん

### いのちをつなぐ未来館

☎0193-27-5666(うのすまい・トモス) MAP P112E4

①釜石市鵜住居町4-901-2(うのすまい・トモス)

②三陸沿岸道路釜石北ICから車で4分

③9時30分～17時30分(11～2月は～17時)

④水曜

⑤館内無料(語り部プログラムは1時間半コース)

1万1000円～※1週間前までに要予約)

⑥あり(大型バス:あり)

https://unosumai-tomos.jp



A1 約1.6kmの道のりを、40～50分間避難続けた。 A2 近くの崖が崩れ始め、異変を察知した付近の住民がさらに逃げたほうがよいと助言。避難したあとごさいしょの里は津波のにみ込まれた。

注①出典:東日本大震災 釜石市証言・記録集「伝えたい3.11の記憶」,平成28年(2016)7月13日,釜石市